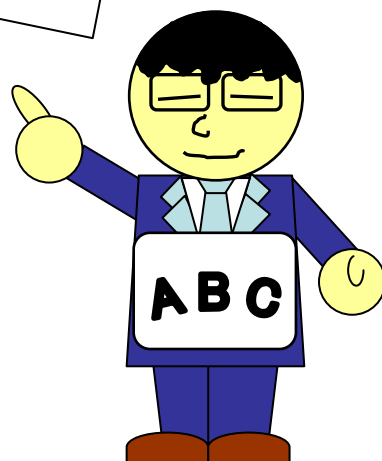


## 解説編

次のページからは、チャレンジ1から4の解説です。

行動を観察するポイントや、子どもの行動の捉え方などを詳しく説明しています。チャレンジ編を読んで分からない点や、チャレンジを行う中で行き詰ったとき等に参考にしてください。

日頃の子どもたちとのかかわりが、少し整理できるかもしれません。



【解説】取り組む行動を決める！

ポイント 1 - 1 : 行動を分類する

☆ 取り組む行動は、増やしたい行動ですか？減らしたい行動ですか？行動を3つの分類で整理してみましょう。

○ 取り組む行動は、次の3つの分類のどれに当てはまるか考えてみましょう。

<p>① 増やしたい、 増えてほしい行動</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に「貸して」と言う</li> <li>・あいさつをする</li> <li>・おもちゃを片付ける</li> <li>・動物の絵を描く</li> </ul> <p>もう少しがんばってほしい行動だけでなく、得意な行動も含まれます</p>	<p>② 減らしたい、 減ってほしい行動</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他児を叩く</li> <li>・机を蹴る</li> <li>・泣き叫ぶ</li> <li>・床に頭を打ちつける (自傷)</li> </ul>	<p>③ 今のままでいい行動</p> <p>増えてほしい行動、減ってほしい行動以外の行動 (①②以外の行動)</p>
---	---	--

○ 行動を3つに分類すると、困った状態や支援がうまくいっていない状態を次のように整理することができます。

- ・ 増やしたい行動が増えない (「OOをしなくて困ってるんです」)
- ・ 減らしたい行動が減らない (「OOをするんで困ってるんです」)

○ また、支援を次のように整理することができます。

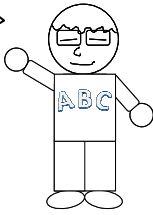
・ 増やしたい行動を増やすためのかわり、工夫  
 ・ 減らしたい行動を減らすためのかわり、工夫

を考えて、実施すること

【 行動を「増やす」「減らす」ポイントは「ポイント2 - 1 (P. 14)」へ 】

取り組む行動が、「否定型(～しない、～できない)」の表現になっている場合は、「肯定型(～する、～できる)」の表現に直してから、分類・整理しましょう。

【否定型の表現】	【肯定型の表現】	
「全体指示で動けない」	→ 「全体指示で動く」	⇒ 増やしたい行動
「設定保育に参加しない」	→ 「設定保育に参加する」	⇒ 増やしたい行動
「叩かない」	→ 「叩く」	⇒ 減らしたい行動
「泣かない」	→ 「泣く」	⇒ 減らしたい行動



## ポイント 1 - 2 : 行動を具体的にする

- ☆ 取り上げた行動は、もっと細かく分けることができますか？複数の行動が思い浮かびますか？  
- 「はい」の場合は、まだ具体的ではありません。

「ルールを守らない」「パニックを起こす」「切り換えが難しい」などの表現は、実は、いろいろな場面や行動を含んでいます。例えば、「ルールを守らない」とは、どんなルールを守らずに、代わりにどんなことをしているのでしょうか？

いろいろな子どもの姿、行動が浮かんでくる表現の場合は、その中の1つに焦点を当てることで具体的な行動にすることができます。

ポイントは、具体的な場面を思い浮かべて、そこで子どもがしていることを表現することです。



### ○取り組む行動を具体的に表現することのメリット

#### ・支援が考えやすい

取り組む行動を「ルールを守る」に決めると、スゴロクの順番や、お片付けや、話を聞くことなどに一気に取り組まないといけないことになってしまいます。これら全てに通じる支援を考えるよりも、ひとつひとつの具体的な行動に焦点を絞って支援を考える方が、支援が考えやすいです。

#### ・支援を一貫させることができる（支援のポイントがずれにくくなる）

別の支援者の方と取り組む行動について話をするとき、複数の行動が思い浮かぶ表現の場合、その支援者の方がこちらが思っている行動と違う行動を想定してしまうことがあります。このような状態では、支援方法を話し合ったり、支援を共有する際にポイントがずれてしまい、なかなか支援を一貫させることが難しいです。支援者間で支援を一貫させるためにも、子どもの姿が思い浮かぶような具体的な表現を使いましょう。



**【解説】行動の ABC を観察し、記録する！**



**ポイント 2 - 1 : 行動の原理を知る**

☆ 「増やしたい行動を増やすために」、「減らしたい行動を減らすために」どんなかわりができるでしょうか？  
 ここでは、行動が増えたり、減ったりするときの法則（行動の原理）についてご紹介します。  
 行動は、どのようなときに増えたり、減ったりするのでしょうか。  
 片付けが苦手なMくんの例を見ながら考えてみましょう。

**例** 4 歳児クラスの担任 Y 先生が、M くんという男の子について主任の S 先生に相談に来ました。Y 先生の相談は、「片付けましょう」と言っても M くんが全然片付けようとしませんでした。去年の担任の T 先生に聞くと、M くんは片付けられることが多かったとのことでした。いったいどうしたのでしょうか？

ここで M くんが、Y 先生のことが嫌いだからとか、M くんが発達上の問題だからといった理由を考えてもなかなか M くんの変えることは難しいものです。  
 そこで、S 先生は、Y 先生と T 先生からそれぞれ片付けの場面について話を聞き、それぞれの ABC を書いてみました。

**去年の ABC** M くんは、片付けることが多かった

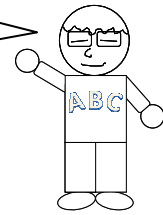
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
お片付けの時間 T 先生:「片付けましょう」	電車のおもちゃを片付ける。	<b>T 先生:頭をなでながら、笑顔で「えらいね」と言う。</b>

**今年の ABC** M くんは、ほとんど片付けなくなった

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
お片付けの時間 Y 先生:「片付けましょう」	電車のおもちゃを片付ける。	<b>Y 先生:「もっとちゃんと片付けないとダメでしょう！」</b>

去年と今年の ABC の記録を比べた S 先生は、Y 先生に ABC の記録を見せながら、「**行動の原理**」について話をしました。「**行動の原理**」を勉強した Y 先生は、自分が知らず知らずの内に、M くん「片付ける」という行動を減らす対応をしていたのかもしれないと考えました。そこで Y 先生は T 先生を参考に対応を変えてみました。具体的には、M くんがおもちゃを片付けたときに、多少片付ける場所が違ったり、はみ出したりしても、まずは片付けたことをいっぱいほめてあげました。すると M くんは、少しずつおもちゃを片付けるようになりました。その後、こんな風に片付けるんだよと Y 先生が、見本を見せてあげると M くんはがんばって片付ける姿も見られ、今ではすっかり自信を持ってお片付けをしています。

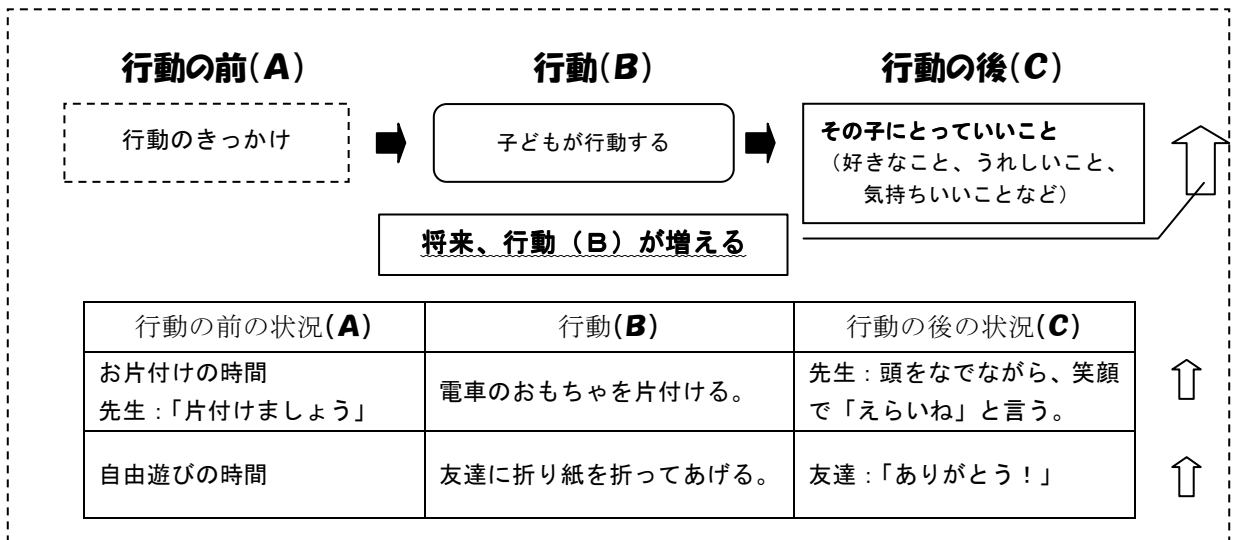
Y先生が勉強した、行動が増えるとき、減るときの『行動の原理』について、ご紹介します。



## 『行動の原理』：行動が増えるとき・減るとき

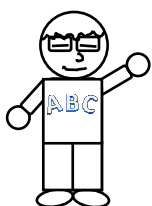
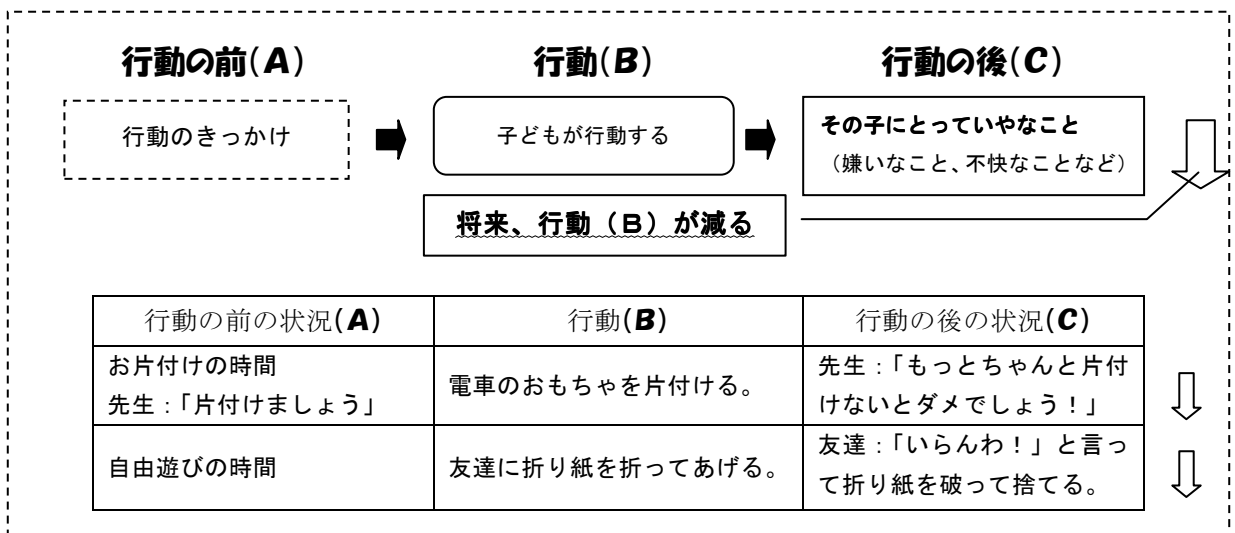
### ◇ 行動が増えるとき

子どもが行動した直後に、その子にとって“いいこと”が起こる（“いやなこと”がなくなる）と将来その行動は増えます（専門的には「強化」といいます）。



### ◇ 行動が減るとき

反対に、子どもが行動した直後に、子どもにとって“いやなこと”が起こる（“いいこと”がなくなる）と将来その行動が減ります（専門的には「弱化」といいます）。



行動の直後にどんなことがあったか、どんな対応をしているかといった行動の後の状況(C)が、将来の子どもの行動の増減に大きな影響を与えます。Y先生は、“行動の原理”を知り、行動の後(C)の対応を変えることで、Mくんの片付ける行動を増やすことに成功しました。“行動の原理”を理解して、ABCの記録を行うと、どうしてその行動が起こるのか(起こらないのか)といった行動の理由や、その子に合った支援方法が見えてきます。



## ポイント2-2：“いいこと”は子どもによって違う

☆ 行動を増やす子どもにとって“いいこと”（好きなこと、うれしいこと、気持ちいいこと）は、日常の中にたくさんあります。ここでは日常生活でよく見られる“いいこと”を挙げてみます。

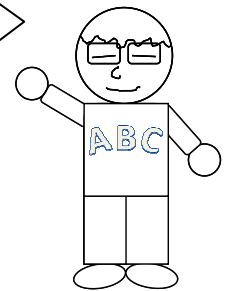
### 【多くの子どもにとって“いいこと”の例：日常生活で多く見られるもの】

- ・先生のほめ言葉：「よくがんばったね」「すごい！」「上手だね」など
- ・ジェスチャー：親指を立てる、手で「O」を作るなど
- ・スキンシップ：頭をなでる、抱っこするなど
- ・友達や先生からの注目（視線も）：前に出してもらう、リーダーに任命するなど
- ・好きなもの・活動：シール、カード、遊び、ゲーム、食べ物、飲み物など

気をつけて！！

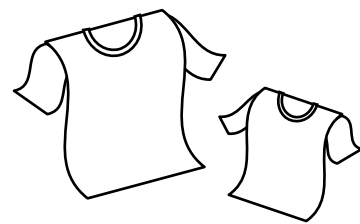
“いいこと”は、子どもの特性や年齢、その日の体調によっても変わります。例えば、多くの園児にとってうれしいであろうスキンシップも、感覚に過敏性のあるお子さんの場合は、うれしいことではなく、むしろ嫌なことかもしれません。先生は、ほめているつもりでも、子どもにとってはあまりうれしくないかもしれません。

支援者がどう思っているかではなく、「その子にとって」いいことであるか（将来の行動が増えるか否か）が重要なのです。



《ちょっと一休み》

『行動の原理』は、大人にも当てはまります。  
ABCを使って、考えてみましょう！



【夫の行動のABC】

行動の前の状況 (A)	行動 (B)	行動の後の状況 (C)
休日の朝	洗濯ものをたたむ	妻： 「ありがとう！とってもうれしいわ♪」
休日の朝	洗濯ものをたたむ	妻： 「何これ！もっとちゃんとたたんでよ！」

？

？

夫に、気持ちよく家事を手伝ってほしいと思ったら、行動（「洗濯ものをたたむ」）の後にどうすればよいのでしょうか？どうすれば、望ましい行動が増えるのでしょうか？



## 【解説】記録をもとに支援を考える！

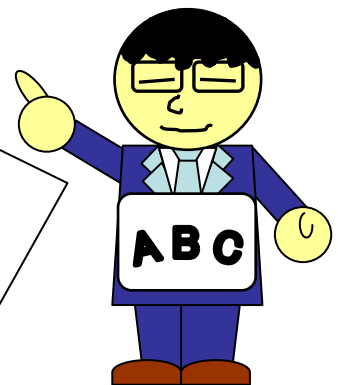
ABCの記録を見ながら、支援を考える（話し合う）際のポイントをご紹介します。

ここで紹介するものは、『チャレンジ3』を行う際のヒントになるものですので、必ず使わなければいけないものではありません。

どの順番で使ってもいいですし、使わないものがあったってもいいです。もちろん前から順にすべて使ってもOKです！また、これだけですべて解決しないかもしれません。

重要なことは、ABCの記録を見ながら、対象児と環境（支援者のかかわり等）との相互作用に注目し、いろいろな支援のアイデアを考えることです。

記録を見ながら、他の先生と話し合っ、いろいろな可能性や、アイデアを考えてみましょう！



### 【ポイント3：支援を考える上でのポイント】

- ポイント3-1：困った行動の理由を考える . . . P. 18
- ポイント3-2：困った行動の理由から支援を考える . . . P. 21
- ポイント3-3：できている行動（○）を探す . . . P. 24
- ポイント3-4：子どもに合った指示を考える . . . P. 27
- ポイント3-5：新しい行動を教えるー教える行動を分けるー . . . P. 30



## ポイント3 - 1 : 困った行動の理由を考える

- ☆ 困った行動がどうして起こるのかを考える際のポイントは、ABCの記録を見ながら、場面を絞って、できるだけいろいろな可能性を考えることです。  
可能性を考えるときには、行動(B)だけでなく、前後の状況(AとC)を見ながら考えましょう。

ここでは、困った行動の理由としてよく見られるものをご紹介します。

### 【よく見られる理由】

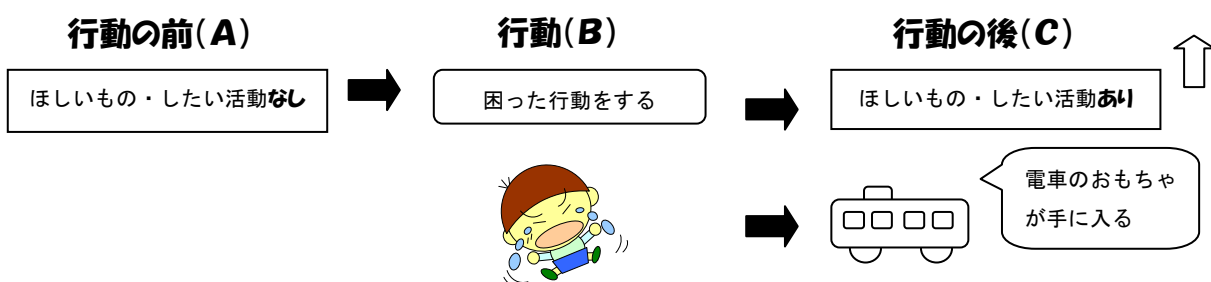
- ① おもちゃなどの物や遊びなどの活動の機会が得られる
- ② 先生や友達の注目が得られる
- ③ 嫌なこと・難しいことから逃避・回避できる
- ④ その行動自体が楽しい・刺激が得られる（自己刺激）
- ⑤ 適切な行動が身についていない
- ⑥ すべきことが分からない（指示が難しい）

この中で、①から③の理由は、困った行動の後に子どもにとっていいことがあり（いやなことがなくなる）、困った行動が増えている（維持されている）例になります。

①から③を詳しく見てみましょう。

### ① おもちゃなどの物や遊びなどの活動の機会が得られる<要求>

これは、困った行動をすることによって、ほしいもの（おもちゃなど）が手に入る、したいことができるというパターンです（要求）。「今はこのおもちゃは使いません」とU先生が言った後、O君が使いたいと大泣きしました。U先生が、今日だけはしょうがないと思ってOくんにおもちゃを渡してしまうと、次からもOくんはおもちゃが使いたいときに大泣きするようになってしまうでしょう。U先生は知らず知らずの内に、Oくんの「大泣き」行動を増やしてしまったのです。



## ABC分析シート

対象児：O（男児）

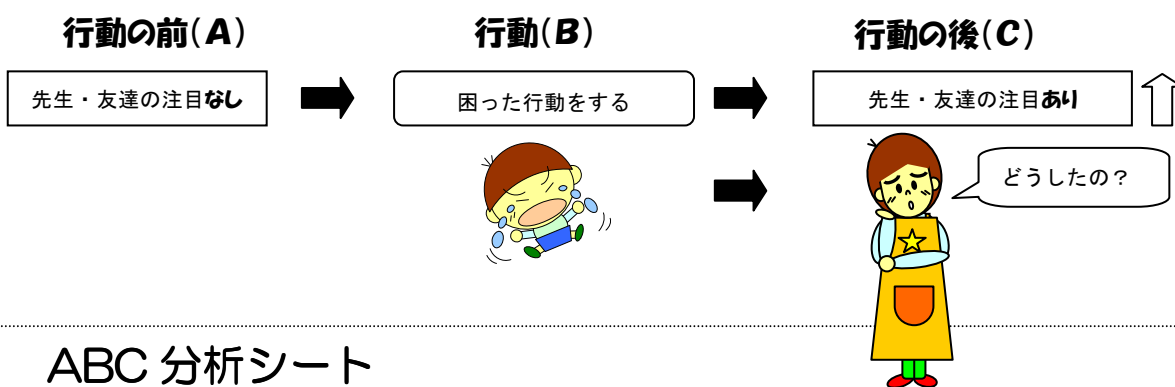
担任：U先生

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[ 朝・部屋・自由遊び ] U先生：「今はこのおもちゃは使いません」	「使いたい」と大泣きする。	U先生：Oくんにおもちゃを渡す。



② 先生や友達の注目が得られる<注目>

これは、困った行動をすることによって、先生や友達が注目してくれたり、声を掛けてくれたりするというパターンです（注目）。お昼寝の時間になると必ず大泣きするNくんのABCの記録を見てみると、Nくんが「大泣き」するとK先生がNくんの側に行って声かけをするというパターンが見られました。お昼寝が始まったときにNくんが静かにしていたので、K先生は安心して別の園児の対応をしていたのですが、Nくんが泣きだしたのであわててNくんの側に行って声をかけています。ここでK先生は、自分でも気づかない内にNくんの泣くという行動を増やす対応をしてしまっているのかもしれない。困った行動に対して注意することも、子どもによっては注目となり、行動を増やす対応となる場合があります。ロッカーに登ったNくんにK先生が一生懸命降りなさいと注意しているけれど、Nくんはうれしそうにロッカーの上を歩いています。こんなときは、先生の注意が、ロッカーに登るという行動を増やしてしまっているのかもしれない。



ABC 分析シート

対象児：N（男児） 担任：K先生

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[ 昼食後・部屋・お昼寝 ] お昼寝が始まる。	静かにしている。	K先生：別の園児の対応をしている。
"	泣き出す。	K先生：Nくんの側に行って「どうしたの？」と声をかける。

ABC 分析シート

対象児：N（男児） 担任：K先生

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[ お昼寝の後・部屋・自由遊び ] K先生：別の園児と絵本を見ている。	ロッカーに登る。	K先生：「降りなさい」
"	うれしそうにロッカーの上を歩く。	K先生：「降りなさい」

③ 嫌なこと・難しいことから逃避・回避できる<逃避・回避>

これは、困った行動をすることによって、嫌なこと・難しいこと（制作の課題、片付けなど）がなくなったり、しなくてよくなったりするというパターンです（逃避・回避）。片付けのときに、Rくんは必ず大泣きします。W先生は、最初は、片付けましょうとRくんに言うのですが、Rくんが泣き続けるので、Rくんに片付けさせるのをあきらめて、Rくんの側を離れてしまいました。Rくんの「大泣き」は、片付けという嫌な活動がなくなることによって、増えて（維持されて）いるのかもしれない。



ABC分析シート

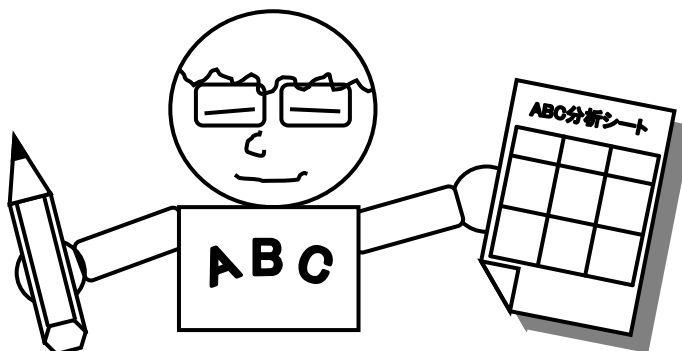
対象児：R（男児）

担任：W先生

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[ 朝・部屋・自由遊びのおわり ] お片付けの時間になる。	大泣きする。	W先生：「片付けましょう」
〃	泣き続ける。	W先生：あきらめてRくんの側を離れる。

①から③の理由を詳しくみてきましたが、ここでのポイントは同じ「大泣き」でも、その理由が違うということです。行動の理由や働き（機能）は、行動だけでなくその前後の状況（AとC）を合わせてみることによって、見えてくることが多いです。

行動の理由は、①から③以外にも、④から⑥や、ここで紹介していないものもあります。また、困った行動の理由は1つとは限りません。日常生活の中では、複数の理由によって行動が起こっている場合の方が多いかもしれません。ABCの記録を見ながら、できるだけたくさん理由を考えてみてください。





## ポイント3 - 2 : 困った行動の理由から支援を考える

- ☆ ポイント3 - 1で紹介した困った行動の理由①から③に対応した支援方法についてご紹介します。困った行動の理由の①から③のいずれかに該当する場合は、支援を考える際の参考にしてください。

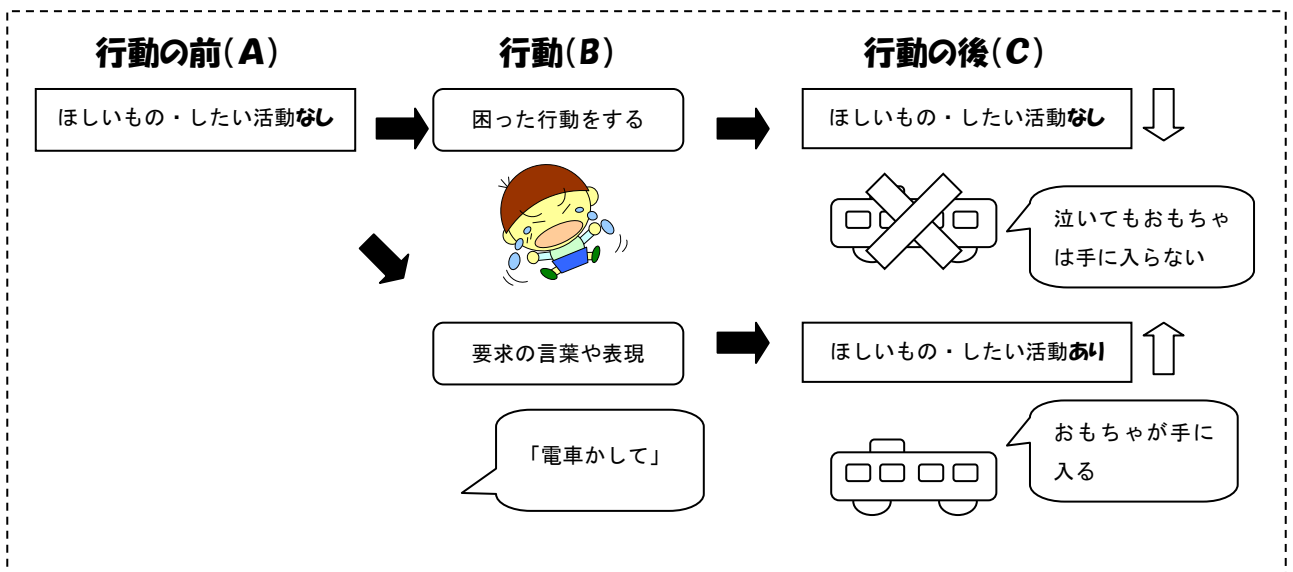
### 【行動の理由①】 <要求> の場合の支援方法

**要求を言葉などの表現で伝えられるように支援しよう！**

泣いたり、叩いたりといった困った行動をすることで、ほしいものや活動の機会を手に入れているのなら、困った行動の代わりに使える要求の言葉や表現（ジェスチャー、絵カードなど）を教えるということが有効な支援の1つです。

この支援を行うときのポイントは、はじめは、教えた行動を子どもが少しでも行ったら、すぐにほしいものや活動の機会を提供することです。せっかくがんばって、言葉で要求を伝えたのに、うまくいかなければ（ものや機会が得られなければ）、行動の定着は難しいです。

これと同時に、困った行動をしたときには、ほしいものや活動の機会が“絶対に”得られないように対応することも大切です。



### 【行動の理由②】 <注目> の場合の支援方法

**困った行動の代わりにしてほしい行動に注目しよう！**

部屋を飛び出したり、大泣きしたりする行動は、とても目立つもので、先生や周りの子どもの注目を集めやすいものです。反対に、頻繁に部屋を飛び出す子が設定保育のときに座っているときや、お昼寝のときにいつも大泣きする子が静かにしているときは、先生は安心してしまって、注目していないかもしれません。その子に飛び出さずに部屋の中で過ごしてほしいなら部屋を飛び出す前に、泣かないで寝られるようになってほしいなら大泣きする前に、注目を向けてあげる必要があります（「ポイント3 - 3 (P. 24)」参照）。頻繁に飛び出す子の場合、設定保育のときにちゃんと座れ

ていたら、そのことをほめてあげるのもいいですし、自由遊びのときに積木で遊べていたら上手に作れていることをほめてあげるのもいいかもしれません。また、飛び出す前に注目を向けてあげると合わせて、飛び出したことに注目しないことも大切です。これまでその子が飛び出すと必ず追いかけていたなら、安全を確保した上で、追いかけておく必要があります（「コラム（P.23）」参照）。もちろん飛び出した子が、部屋に戻ってきたら、そのことをほめてあげたり、注目を向けてあげることも重要です。

困った行動で注目を得ているときには、困った行動がよく起こる場面（設定保育、自由遊び、給食の準備等）で、代わりにしてほしい行動にたくさん注目を向けて、反対に困った行動には注目しないという支援が有効です。代わりにしてほしい行動として、「せんせい、あそぼう」などの言葉を教えるというのもいいかもしれません。

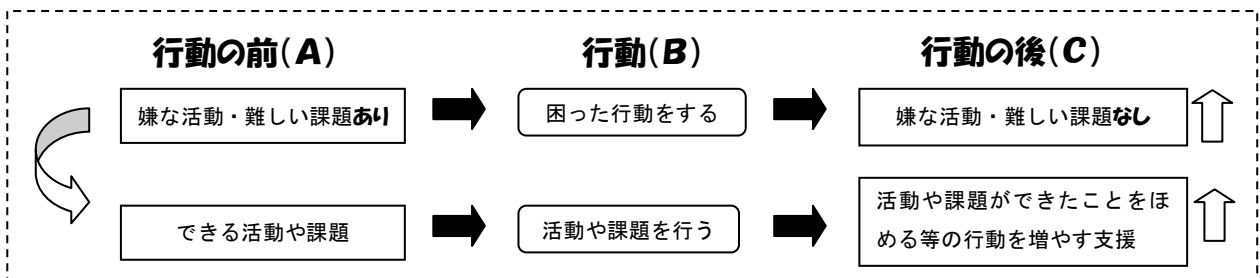
行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
〔教室・午前・設定保育〕 先生:「座りましょう」	外に出ていく。	先生:追いかけて行って、どうして飛び出したのかを聞く。
〔教室・午前・設定保育〕 先生:「座りましょう」	座っている。	先生:「バッチリ、座れてるね」とほめる。

**【行動の理由③】 <逃避・回避> の場合の支援方法**

**取り組んでほしい活動や課題のスマールステップを考えてみよう！**

困った行動が起こったので、活動をしてもらうのをあきらめたり、別の課題をしてもらっていると、子どもは嫌な活動や、難しい課題が出たときにその対処方法として、困った行動を行うようになります。無理してやらせようとして、困った行動が起こり、結局、根負けして課題や活動をしなかったということになると、本当はそこで体験してほしいことや、学んでほしいことではなく、困った行動によってその状況を逃避・回避できるということを学んでしまうこととなります。こんなパターンになってしまっているのなら、その課題は“現在の”園児に合っていないかもしれないと思って、スマールステップを考えてみましょう。活動や課題の難易度を下げたり、量を減らしたり、子どもの好きなもの（おもちゃやキャラクターなど）や、得意な活動などを取り入れて、今その子の「できる」活動を考えてみましょう（「ポイント3 - 5（P.30）」参照）。もちろん少しでも活動や課題に取り組めたら、そのことがしっかり増えていくように行動の後の対応も忘れてはいけません。

活動や課題を簡単にして、園児が取り組むことができたら、難易度を上げるなどして、少しずつステップアップし、最初にしてほしかった活動や課題に近づけていきましょう。



### 【コラム：困った行動への対応 ～注目しない～】

ポイント3 - 2で紹介した支援の中では、困った行動に代わる適切な行動を引き出す支援と同時に、これまで行っていた困った行動の後の対応（要求をかなえる、注目を向ける、課題の中止など）を止めることをお伝えしました。

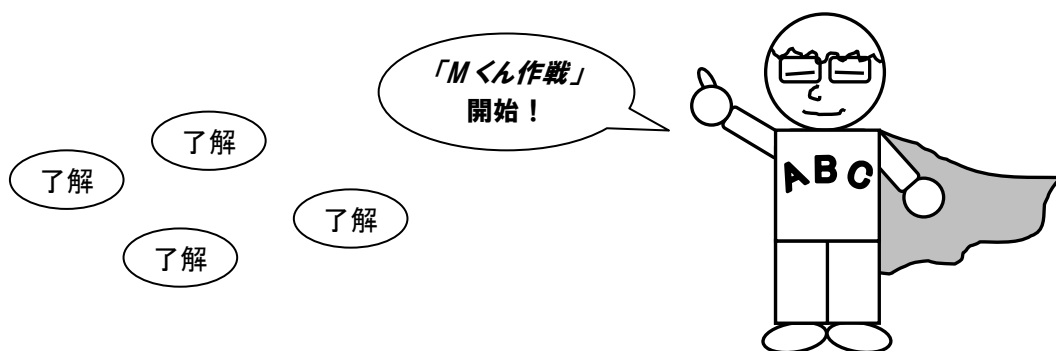
これまで泣けば、あるいは部屋を飛び出せばうまくいっていたのに、突然それがうまくいかなくなると一時的に困った行動がひどくなることがあります。これまでと同じように泣いているだけでは先生がおもちゃを渡してくれないとなれば、もっと大きな声で泣くかもしれません、先生を叩くかもしれません。この時にもしおもちゃを渡してしまったらどうなるでしょうか？次からその子は、同じ状況で、大声で泣いたり、先生を叩くようになるでしょう。これは、ひどくなった状態の行動を増やす対応をしてしまったことをあらわしています。

ポイントは、いったん困った行動を増やしている対応（子どもにとっていいこと）を止めると決めたら、一時的に行動がひどくなっても“絶対に”止め続けることです。一時的にひどくなっても、しばらくすると困った行動は減ってきます。もちろん困った行動への対応を止めるのと合わせて、適切な行動を増やす支援を行うことを忘れてはいけません。

困った行動を増やす対応を止めるときに、難しいのが「注目を止める」ことです。困った行動をしても先生は全然影響されないということを園児に伝えるためには、視線を向けない、返事をしない、顔色を変えない、別のことをするなど態度で示す必要があります。

困った行動に「注目しない」ということを態度で示すことは、あらかじめ準備しておかないととても難しいです。計画的に行う必要があるのです。計画的に行う際には、園児にかかわる先生方全員で一貫して実施しなければいけません。一人の先生ががんばっていても、別の人が注目してしまったら、水の泡になってしまうのですから。ケース会議等で、園全体に理解を得ることができると、とても取り組みが進めやすいです（連携する際には、「〇作戦」などの名前をつけて実施するのも役立つかもしれません）。また、毎日一貫して実施する必要があります。何があっても一貫して対応する方が、子どもにとって行動と結果のつながり（「大きな声を出しても先生は全然反応してくれない」など）が分かりやすいのです。

ここでポイントになるのは、注目しないのは子ども自身ではなくて、「困った行動」であるということです。困った行動に対しては注目しないという態度を示しながら、子どもの様子は視線の端で捉えておきます（もちろん、そのことは子どもに気づかれてはいけません）。子どもがあきらめて、困った行動を止めたり、困った行動以外の行動をし始めたら、そのときにこれまで向けてこなかった注目を一気に子どもに向けましょう。このメリハリがハッキリしているほど子どもには分かりやすく、有効な支援となります。





### ポイント3 - 3 : できている行動 (○) を探す

☆ 発達の気になる園児の支援を考える際には、困った行動 (×) を減らすことよりも、適切な行動 (○) を増やすことに焦点を当てるのが有効です。

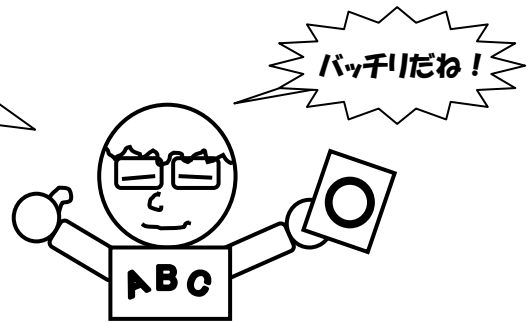
このような支援を行うためには、今現在の園児のできている行動 (○) を積極的に見つけていくことが大切です。

できない行動、困った行動は目立ちやすく、反対にできている行動、適切な行動は目立ちにくいものです (適切な行動は、意識しないとつい「できて当たり前」になってしまいがちです)。困った行動が目立っているときこそ、できている行動を積極的に探してみましよう！

#### 👉 できている行動 (○) を探す

- ① ABCを見ながら、できているところ (できていると考えてあげてもいいところ) はないか探す。
- ② 発見した「できている行動 (○)」の後に行動が増える対応 (ほめる等の子どもにとっていいこと) があるか確認する。

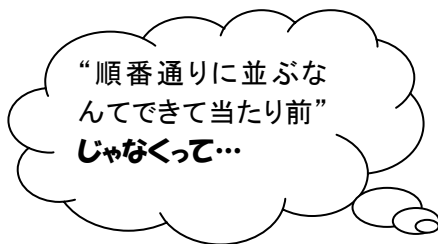
もし「できている行動 (○)」の後に行動が増える対応がないのなら、まずはその行動をほめる等の支援から始めてみましょう！



#### 👉 できている行動 (○) を探すためのコツ

##### コツ①：“できて当たり前”をいったん横に置く

園児のできている行動 (○) を探すためのポイントは、“できて当たり前”という考えをいったん横に置くことです。「5歳児さんなんだからこれくらいは…」「みんなできているんだからこんなことは…」といった具合に、意識しないとつい“できて当たり前”という気持ちが出てくる場合があります。できている行動 (○) を探すときには、他の園児と比べるのではなくて、その子の2週間前、半年前を考えて、ここまではできるようになったという部分を探しましょう。2週間前、半年前を振り返る際には、以前のABCの記録を見るのも1つです。具体的な状況を思い浮かべながら、お子さんのできるようになったことを確認してみましょう。



すごい！ちゃんと列の後ろに並べたね！

## コツ②:いつもの困ったABCのパターンが起こらない

ABCの観察記録をつけていると、この場面では、行動をするだろう（しないでろう）というパターンが見えてきます。パターンが見えてくると、「この場面では、（本当はしてほしいけど）行動をしないでろうな」や、「この場面では、困った行動をするだろうな」と予測できるようになってきます。また、ときどきこの予測に反して、してほしい行動をしたり、困った行動をしなかったりする場面に出会うことがあります。この予測に反する行動も、園児のできているところ（○）になります。この園児の「○」の行動に対して、積極的にほめる等の声かけをして、どんどんその「○」の行動を増やしていきましょう。

ABCの記録をして見えてきた園児の行動のパターンが良い意味で裏切られたら、そこには子どもの「○」があるのです。

例)

- ・鬼ごっこでタッチされたときによく叩く子どもが、叩かずに鬼ごっこが続けられた ⇒ OK!  
（×：叩かずに鬼ごっこするなんて当たり前）
- ・着替えるのを嫌がって泣いていた子が、手伝ってもらったけど泣かずにできた ⇒ OK!  
（×：手伝ってもらってできるのは当たり前）

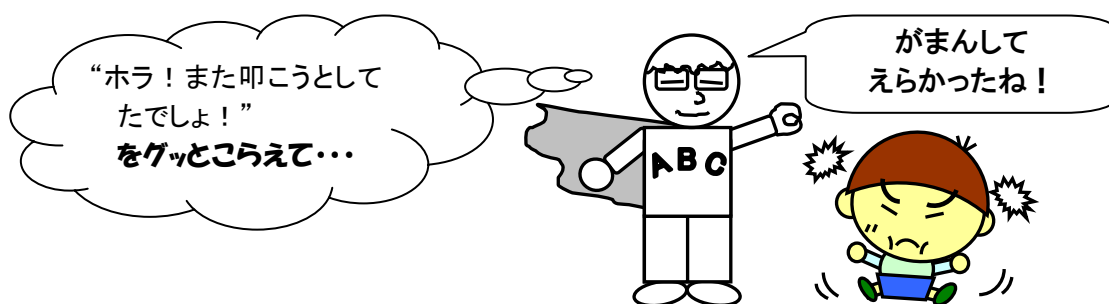
## コツ③:OKにする基準を下げる

子どものできている行動が見つげにくい場合は、目標とする「できる」の基準がその子に合っていない（高すぎる）のかもしれませんが、そんなときはその子に合わせた基準を設定する必要があります。具体的には、子どものできている行動が見えてくるまで基準を下げるのです。

基準の下げ方にはいろいろなものがありますが、目標とする行動を時間や、回数に直すこと（数値化）もその1つです。「朝の会に参加してほしい」という目標を「朝の会に20分参加してほしい」という具合に数値化すれば、後は目標の数値をその子ができるところまで下げる（「最初の2分は参加してほしい」）によって調整することができます。まずは、支援付きでもいいからその子のできる基準から始めて、様子を見ながら少しずつ基準を上げていくことが大切です。

☆ せっかくがんばっている部分もあるのに、先生自身が、細かい失敗にこだわってしまっていないですか。もっともっとという気持ちをグッとこらえて、まずは子どものできていることを積極的に探してみましょう！

☆ 「叩こうとしたけど、叩かなかった」場合は、「叩こうとした（×）」ことに注目しそのことを注意するよりも、「叩かなかった（○）」ことに注目しそのことを積極的にほめてあげましょう！



**【コラム：子どもの好きなこと、得意なこと】**

ポイント3-3では、主に普段は見過ごしてしまうような子どもの「〇」を発見することに焦点を当ててお話ししました。

子どもの「〇」に関しては、この他にも、その子の好きな活動や得意な活動、好きなおもちゃやキャラクターなどの情報も支援を考える上で役立つものになります。

設定保育に参加してほしいときなどは、先生のかかわりも重要ですが、子どもが取り組みやすい活動や課題を用意することも合わせて重要な支援となります。取り組みやすい活動、課題を考える際には、子どもに合わせてその難易度を調整することも有効なものです。子どもの好きなことや得意なことを取り入れることも有効です。好きな活動や得意な課題を取り入れたり、好きなもの（キャラクター等）を使った課題を考えたりすることで、その子にとって楽しい課題や取り組みやすい課題を作り出すことができるのです。

子どものできないところだけでなく、できていること、得意なことについての情報や、その子がどんなことが好きかについての情報を集め、それを書きとめて、眺めてみると、意外な支援のヒントが見つかるかもしれません。





## ポイント3 - 4 : 子どもに合った指示を考える

- ☆ 先生の指示を聞いて活動することは、保育園等の集団生活の場面ではとても大切なことです。そのため、「その子に合った指示」「その子にとって分かりやすい指示」を工夫することも重要な支援になります。ここでは、子どもに合った分かりやすい指示を考える際のポイントをいくつか紹介します。

### 👉 指示の 内容 を工夫してみよう！

#### 分かりやすい指示①：「具体的な」指示

最初にご紹介する指示は、具体的な指示です。ABCの記録を見て、園児が指示で動けていないときには、その指示をもっと具体的にできないか考えてみましょう。具体的な指示を考える場合は、ポイント1 - 2 (P. 13) でご紹介した具体的な行動を表現するためのポイントを思い出してください。いろいろな行動が思い浮かぶものはその中の1つを取りだして表現する、実際の子どもの姿・行動が思い浮かぶような表現をすることが大切です。

他にも、ポイント3 - 5 (P. 30) で紹介する行動を細かく分ける(課題分析)ことも具体的な指示を考えるときに有効です。

また、「ちゃんと～」「きちんと～」「しっかり～」などは、よく使う指示ですが、これらはもっと具体的にできます。子どもが指示で動けない場面のABCを振り返って、「ちゃんと座りなさい」「きちんと片付けなさい」などの指示を発見したら、ちゃんと座るって具体的に何をすることだろう？きちんと片付けるって具体的に何をすることだろう？という風に考えてみてください。考える際には、ちゃんとできている子どもの姿とちゃんとできていない子どもの姿を思い浮かべて、できていない子どもが、何と、何と…何をすれば、ちゃんとできていることになるのかを考えてみてください。

(例) ドッチボールの場面：

「ルールを守りなさい」	⇒	「線の外からボールを投げて」
-------------	---	----------------

(例) 椅子に座る場面：

「ちゃんと座りなさい」	⇒	「背筋をのばす」「足を床につける」「顔を先生の方に向ける」など
-------------	---	---------------------------------

#### 分かりやすい指示②：「シンプル(簡潔)な」指示(1つの指示で1つの行動)

指示が長いために、指示を全て聞きとれなかったり、せっかく聞いた指示を忘れてしまって、指示通りに動けなくなっている子どもがいます。

長い指示で動けない子の場合は、指示を短くシンプルにすることが有効です。

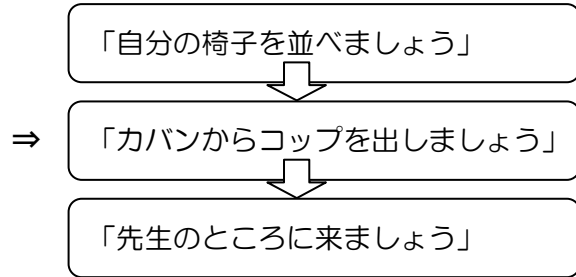
最もシンプルな指示というのは、すること(行動)が1つの指示です。1つの指示の中にすることがたくさん入っていればいるほど、言いかえると、指示の中に含まれる行動の数が増えれば増えるほど、より難易度の高い難しい指示になります。

最初は、1つの指示に1つの行動というもっともシンプルな指示から始めて、子どもの状態に合わせて、指示の中に入れる行動の数を少しずつ増やして、徐々に長い指示でもできるように支援をステップアップしていきましょう。

(例) 給食の準備の場面：

「自分の椅子を並べた人は、カバンからコップを出して、先生のところに来てね」

複数の行動が入った指示



1つの行動のみの指示を1つずつ

### 分かりやすい指示③:「～しない(×)」ではなく「～します(○)」の指示

「廊下は走らない」や「呼び捨てにしない」などの「～しない」という指示が難しい子どもがいます。

「廊下は走らない」や「呼び捨てにしない」という指示には、してはいけない行動は示されていますが、代わりにすべき行動(「廊下は歩く」「■■くん(▲▲ちゃん)と呼ぶ」)は示されていません。「～しない」の指示だけでは、代わりに何をすればいいのかわからず、動けない子どもがいます。そんな子の場合は、「(～せずに)～して」という代替の行動を明示した指示が有効です。

また、「～しない」という指示は、多くの場合、注意されたり、叱られることとセットになります。「～しない」と言って頻繁に叱られている子の場合は、「～しない」が叱られることのサインになっている場合があります。このような子の場合には、指示の内容にかかわらず「～しない」という言葉(叱られることのサイン)に反応して、反抗的な態度をとってしまい、指示を聞くことができなくなってしまいます。こんな場合にも「(～せずに)～して」という指示は、有効なのです。

(例) 自由遊びの場面：

「おもちゃを勝手にとらない！」

してはいけない行動の指示

⇒

「『かして』って言って」

代替に行う行動の指示

☆ ここまでに紹介した指示の**内容**以外にも、指示の**出し方**を工夫することが有効な場合もあります。ここからは、指示の出し方の工夫について見ていきましょう。

### 👉 指示の出し方を工夫してみよう！

#### 指示の出し方の工夫①:言葉の指示とセットで行うかわり

言葉の指示だけでは分かりにくい子どもの場合、言葉と一緒に視覚的な手がかりを提示することで動くことができる場合があります。他にも、見本を見せたり、移動の際に少し背中を押してあげるなどのかわりをセットにすることで動きやすくなる場合があります。

<指示とセットで行うかわり>

- ・視覚的な手がかり：指さし、指示と対応した物（「外に行く」＋帽子、「お茶を飲む」＋コップなど）を見せるなど
- ・見本を見せる（モデリング）：先生、他の園児
- ・身体的ガイダンス（誘導・補助）：席に誘導するなど

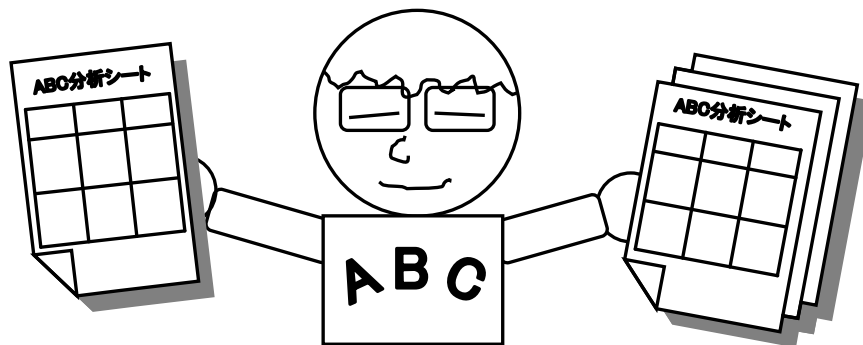
## 指示の出し方の工夫②：指示への注目

指示が出たときに、先生の方に注意が向いていないために、指示で動けない園児がいます。指示を出している先生に注目することで、動きやすくなる園児の場合には、その子が、先生に注目していることを確認してから指示を出したり、指示を出す前にこちらに注目を向けるかわり（名前を呼ぶ、声の強弱をつける、目を合わせるなど）を行うことが有効です。

## 指示の出し方の工夫③：指示の形式

全体指示ではできない子どもでも、個別に指示すれば動けることはよくあることです。個別指示で動ける子どもが、全体指示で動けるようになるための間のステップとして、間接的な指示があります。例えば、対象児の近くで全体指示をくり返す（あくまで全体指示の形式で行いません。個別の指示のように目を合わせて行ったりはしません）、対象児の近くのできている子どもの具体的な行動をほめるなどが、間接的な指示になります。全体指示、間接的な指示、個別指示の中でどんな形式の指示で動けるのかをA B Cの記録を行う中でつかんでいきましょう。

☆ その子にあった指示の内容や指示の出し方を発見するためには、指示で「動けなかった場面（×）」のA B Cだけでなく、「動けた場面（○）」のA B Cの記録を行う必要があります。動けなかった場合と動けた場合の指示の内容や出し方の違いに注目することで、その子に合った指示が見えてきます。





## ポイント3 - 5 : 新しい行動を教える

### - 教える行動を分ける -

- ☆ 子どもに新しい行動、活動、課題を教えるときのポイントについてご紹介します。教えた行動が、対象児にとってすぐに行うことが難しい場合には、その行動を細かく分ける（課題分析）と教えるべきポイントがはっきりして、支援が考えやすくなります。ここでは、行動を細かく分ける（課題分析）方法について見ていきます。

#### 教える行動を分ける

##### ①目標とする行動、教えた行動を具体的にする（「ポイント1-2(P.13)」参照）

「目標とする行動、教えた行動について複数の行動や場面が思い浮かびませんか？」

→ 「はい」の場合は、それらを紙に書き出して、その中の1つを選ぶ → ②へ

→ 「いいえ」の場合は、②へ

##### ②具体的な行動を時系列で分ける

選んだ行動を、時系列で分けていきます。時系列で分けるときには、白紙の紙を用意し、そこに時間の流れにそって行動の手順を書いていきます。一通り書き出したら、追加する行動や、さらに細かく分けられそうな個所がないかを見て、書き加えていきます。思いついたものから、どんどん書き足していきましょう！

→ 行動の手順が書けたら③へ

##### ③「課題分析シート」に記入する 【課題分析シート例】(P. 31)参照

②の手順を課題分析シートに記入します。

→ 記入が終わったら④へ

##### ④「課題分析シート」にチェックする

課題分析シートの各項目にできているところとできていないところをチェックする。チェックする場合は、できる（○）、できない（×）の2段階でもいいし、支援なしでできる（◎）、声かけでできる（○）、身体的ガイダンスでできる（△）、できない（×）という具合に支援の度合いに合わせてより多くの段階を設けるのも有効です。すぐには判断できないという場合は、実際の場면을観察してチェックをつけてみてください。日によってできたり、できなかったりすることがありますので、数日にわたってチェックすることをお勧めします。

→ チェックが終わったら⑤へ

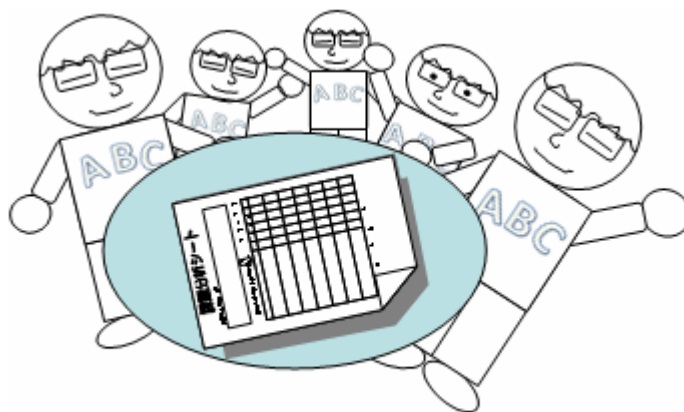
## ⑤ 支援を考える

課題分析シートのチェックを見ながら、現在の支援方法を振り返ってみます。

まずは、課題分析シートにチェックを行って、現在対象児はどこまでできているのかをつかんでください。「◎」、「○」、「△」が付いた項目、これは支援付きでもできている項目になります。これらのできている項目に対して、行動の後に「ほめる・認める」等の行動を増やす対応がない場合は、まずはそれを行うことも有効な支援になります（できて当たり前と誤ってはいけません）。

「×」が付いた項目、これが現在対象児ができない行動になります。複数の「×」がある場合は、その中の1つに絞って支援を考えることで、支援がずいぶん考えやすくなります。

☆ ここで紹介した行動を分ける活動は、一人で行うよりも、複数の先生で行うことをお勧めします。一人で行うよりも、複数の先生で話し合いながら行うといろいろなアイデアが出ますし、何より楽しく行うことができます。



### 【課題分析シートの例】

## 課題分析シート

① 目標となる行動・活動：  
食事の準備をする。

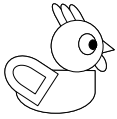
② 目標となる行動・活動を分ける 月 日 ~ 月 日

	/	/	/	/	/	/
全体指示でおもちゃを片付ける						
靴をぬぐ						
手を洗う						
お部屋に入る						
かばんを取りに行く						
スプーンを出す						
椅子を出す						
コップを取りに行く						
椅子に座る						

◎：支援なしでできた ○：個別指示でできた △：保育士が手伝ってできた ×：できなかった



**【解説】 支援を実施し、支援を振り返る！**



**ポイント 4 - 1 : 記録を使って支援の効果を調べる**

☆ 考えた支援を実施し、その支援がうまくいっているかどうかを振り返るための記録としては「ABC分析シート」以外にも、「課題分析シート」や「行動の記録シート」を使うことができます。ここでは、その支援が効果的なものであるのかを調べるための記録として「行動の記録シート」と「課題分析シート」をご紹介します。

**「行動の記録シート」とは**

行動の記録シートは、場面を決めて行動の回数を数えたり、一日をいくつかの時間帯に分けて行動が起こったかどうか等を記録するものです。取り組む行動の種類や、先生の時間の都合等に合わせで記録方法を調整します。詳細な記録の方が、子どもの変化を捉えやすいですが、その分負担も大きくなります。先生の無理のない範囲で続けられる記録を行うことがポイントです。

実際に行動の記録シートを使う場合は、記録方法に合わせて、横線を引いて欄を増やします。下の記録の例を参考に、使いやすい記録シートを作ってください。

**例) 行動の回数を記録する**

**記録する行動: ロッカーに登った回数**

時間帯	5/10(木)	5/11(金)	5/12(土)	5/14(月)	5/15(火)
お昼寝の時間	6	休	7	9	8
備考欄 (新たな支援・取り組みなど)					

休：園児が欠席 (斜線) /：観察なし

例) どれくらい行動したかを数値で記録する

記録する行動: 朝の会に参加する ( 0: 最初から最後まで参加できなかった 1: 部分的に参加できた  
2: 半分以上参加できた 3: 最初から最後まで参加できた )

時間帯	5 / 10(木)	5 / 11(金)	5 / 12(土)	5 / 14(月)	5 / 15(火)
朝の会	0	1	1	0	2
備考欄 (新たな支援・取り組みなど)					

休: 園児が欠席 (斜線) / : 観察なし

例) 行動が起こったか起こらなかったかを記録する

記録する行動: 友達を叩く ( 0: 叩かなかった 1: 叩いた )

時間帯	5 / 10(木)	5 / 11(金)	5 / 12(土)	5 / 14(月)	5 / 15(火)
午前 (登園～給食準備の直前まで)	1	0	0	1	0
給食 (給食準備～お昼寝まで)	1	1	1	1	1
午後 (お昼寝後～帰宅まで)	1	1	0	1	1
備考欄 (新たな支援・取り組みなど)					

休: 園児が欠席 (斜線) / : 観察なし 0: 行動がなかった 1: 行動があった

「行動の記録シート」と「グラフ」の使い方

行動の記録シート

行動の記録シートは、新しい支援を行う前に記録を開始します。いつも通りの対応で、実際にどれくらい困った行動を行っていたり、望ましい行動を行っていかつたりするのかを調べます。記録してみると思っていたよりも、困った行動が少なかったり、望ましい行動が多かったりということもよくあることです。支援前に行動の記録を取ることで、より正確な子どもの状態を捉えることが

できます。

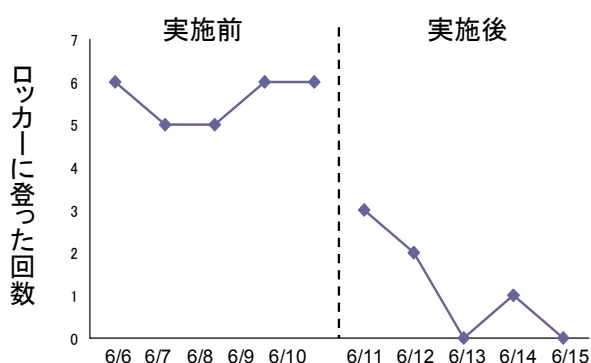
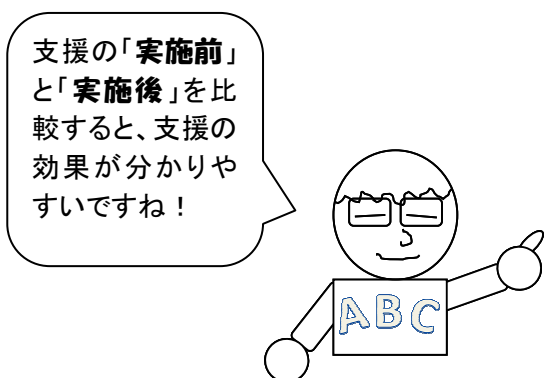
新しい支援を始めたら、2週間から1ヶ月間その支援を継続します。この間も、同様の記録を行います。

## グラフ

行動の記録シートの記録をグラフにするとより支援の効果を判断しやすくなります。

支援の振り返り時に一気にグラフを作るよりも、行動の記録シートの記録をもとに定期的にグラフを更新し、子どもの状態をつかんでいくことも重要です。

	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	
	5	6	6	3	2	0	1	



行動の記録シートに困った行動を記録するときは、困った行動が起こらなかったときにも記録することが大切です。

困った行動が起こったときだけ記録していると「またか…」と困った行動にばかり目を向けてしまうこととなります。

困った行動が起こらなかったということは、とてもうれしいことなので、そこに「○」などを記入してみましょう。こうすることで、「また『○』が増えた」という風に記録を見ることができ、楽しく記録を行うことができるかもしれません。

### 「課題分析シート」の活用

課題分析シート（「ポイント3 - 5 (P. 30)」参照）も行動の記録シートと同じように使うことができます。新しい支援の前後に記録を行い、それをグラフにすることで、子どもが新しい行動を着実に獲得しているのかどうか、を確認することができます。



日々の保育の中で、考えた支援が実施できないことがあります。  
そんなときは、自分を責めないでください。

支援の実施が難しいのは、先生が悪いのではなくて、その支援が今のクラスの状況や園の体制に“合っていない”ただそれだけです。

そんなときは、もっと行いやすい、今の状況に合った支援を考えましょう。  
自分が支援を行うために必要なもの（他の先生の協力、園の体制、支援の報告会など）を考えてみましょう。

「先生自身が行える支援、続けられる支援を考える」という新しいチャレンジのスタートです。

一人でがんばらないでください。  
同じクラスの先生、主任の先生、所長先生等、いろいろな方と話し合いの時間を持つなどして連携していきましょう。

もし、疲れてしまったら、休憩してください。  
誰でも疲れることはあります。ずっとがんばり続ける必要はありません。

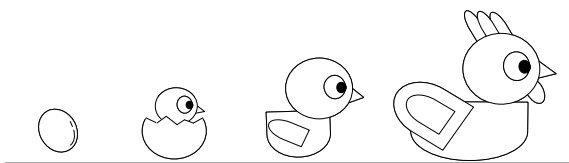
休憩すれば、また「チャレンジしたい！」という元気がわいてきます（あせる必要はありません）。

最後の支援のポイント、それは、子どもの楽しい生活を支援するためには、なによりもまず先生自身が**楽しく支援を行う**ことです。

支援はうまくいくこともあれば、そうでないこともあります。子どもが変わってきたと思っていたら、また新しい問題が出てきてしまうこともよくあることです。新しい問題が出てきたというのは、これまでの問題が解決したから、つまりは子どもの成長の証なんだという気持ちで気長に取り組んでいきましょう。

本書で紹介した4つのチャレンジを行い、皆さんが試行錯誤される中で支援を考え、実践すれば、その中で、お子さんは確実に成長していきます。

子どもの小さな成長をその子にかかわる支援者みんなで共有しながら、楽しくチャレンジを続けていきましょう。



# 事例検討シート

1. 対象児について記入してください。

性別 / 年齢 / クラス	( 男 ・ 女 ) / (    才    ヶ月 ) / (    歳児クラス )
---------------	---

2. 対象児について、保育園での気になる行動または困っている行動を具体的に記入してください。

\* 記入した行動の中から、今回取り組む行動を1つ選んで丸をつけてください。

3. 対象児について、保育園で期待される（大半の園児ができています）行動のうち、できているもの（支援付きを含む）があれば具体的に記入してください。

# ABC分析シート

観察者： \_\_\_\_\_

対象児：

日付

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[ ]		
[ ]		
[ ]		
[ ]		

# ABC分析シート

観察者： \_\_\_\_\_

対象児：

日付

行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
[ ]		

様式シート編

# 課題分析シート

①目標となる行動・活動：

--



②目標となる行動・活動を分ける

月 日 ~ 月 日

	/	/	/	/	/	/

◎：

○：

△：

×：

行動の記録シート( 年 月 日 ~ 月 日 ) 記録者

記録する行動

	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )	/ ( )